

# 「地域住民と取り組む能美海岸の環境保全プロジェクト」 成果報告会

団体名 ● 能美海岸PJ / 代表者名 ● 岸本秀一 (経済学部経営学科・教授)

## はじめに(背景・目的・目標)

石川県能美市の全長約5.8kmの砂浜海岸では長年に渡って地域の自治組織、各種ボランティア、小中学校および高等学校などによる海岸漂着ごみの清掃活動が行われてきた。

今回は経済学部、人間科学部、教養教育部の教員が連携しプロジェクトを立ち上げ、応募いただいた学生と経済学部の基礎専門ゼミナールの学生が中心となり能美海岸の環境保全に関して活動した報告である。活動は2022年10月から開始した。

活動の目的は、海岸に関する実態調査、三世代の住民を対象にした海岸の意識調査、環境保全に関する当該地域の小中学生と活動参加学生の教育である。

## 活動内容

本成果報告会は活動の内容の概要を紹介するものであり、2023年11月4日、本学G館において対面、ZOOMのハイブリット形式で実施した。

今般の報告会では実施した活動を4つのパートにわけて以下の内容で報告した。

活動報告1：海岸清掃活動、小学生・中学生への環境教育、環境啓蒙製品の開発

経済学部 岸本秀一

活動報告2：能美海岸の環境意識に対する三世代アンケート調査

教養教育部 山本輝太郎

活動報告3：能美海岸清掃の行動要因について

経済学部 牧野耀

活動報告4：能美海岸の漂着ゴミ分布および清掃成果のモニタリング

人間科学部 永坂正夫

## 成果、結果の考察

活動報告1の成果物の一つとして、サトウキビを原料とした生分解性のクリアファイルを当日の参加者に資料とともに配布した。

今回の調査の結果について、海岸清掃のボランティア活動は有志によって行われて、地元の小中高

校や行政とも連携したボランティア活動が広まりつつあり、また三世代のアンケート調査では、能美海岸の環境保全に対する意識は高い一方、実際の行動には結びついていないとは言えず、特に親世代にどうやって活動を働きかけるかといった課題があることをご理解いただいた。

プロジェクトに参加した学生からは、「参加して環境に関する意識が変わった」「製品開発を経験できた」「研究らしいことができた」という意見があったこと等が報告された。

参加者からは「継続的な調査を望む」という意見もいただいた。



成果報告会の様子

## 今後の課題、展望

活動報告1に関して既に海岸清掃活動、小学生・中学生の環境教育を23年中に全て完了した。環境啓蒙製品の開発について、小学生用のゲーム2種類について24年1月に製品開発を完了し、2月に能美市内の小学校3校に配布説明を完了した。活動報告2,3,4の一部については23年9月日本科学教育学会にてその成果を発表した。また、海岸の意識調査結果を配布用に簡便にまとめ、24年2月にアンケートに協力いただいた小学校・中学校に持参した。活動報告4の結果については本学『人間科学研究』第17巻 第2号令和6年3月に投稿した。以上横断的な調査は書籍にすることも含めて継続を検討中である。

尚、成果報告会で発表した活動に関して、石川県能美市のハウメット・ジャパン株式会社から助成をいただき、株式会社日本海開発にも多大なご協力をいただいた。